

## 心に宿る思い出

七月の声を聞くと、いよいよ今年も暑い夏が到来したという実感が湧いてきます。

夏と言えば、「夏ばて」です。体がだるくて、食欲すらわいてこない日もあるくらいです。

「夏バテ」予防にはやはり、よく食べ、よく働き、よく寝る事に尽きるでしょう。

何をするにも、元気が無くてはいけませんし、逆に元気があれば何でも出来る。体あつての物種ものたねです。季節の変わり目というのとは一番体調を崩しやすい時期でもあります。どうぞ、呉々もお身体には御留意されませう、祈念しております。さて今月は、『人間は一度生まれたら、二度の命を生きる』という、理解に苦しむ命題を挙げましたのは、私自身、日頃から感じておる事なのです。どういふ事かと申しますと。

我々は命を授かり、「オギヤ！」と生まれてから当然、寿命が尽きて亡くなります。これは生きとし生けるモノなら全てに当てはまる、自然の摂理であります。けれど人間というのは、その後も永遠に生き続ける事が出来る、という考え方なのであります。

よく「肉体は滅んでも、魂は永遠に生き続ける」という事を言われますが、正にそうだと思います。

しかし我々の肉眼ではあの世の世界、または亡くなった方の魂を直接に感じるといふ事は、普通は出来ませんよね？

私達はそれぞれの心の中に、良いものも、悪いものも、「思い出」という記憶が、自分の命が尽きるその日まで、いつまでもいつまでも無くなつて消える事がなく、輝いています。その思い出というのが、自分の心の中で全てのモノを生かす事につながるっていくものと思ひ

ます。「過去の思い出は、今の自分自身を支えてくれる」。思い出の最たるものは、人間関係で築き上げた経験ですよね。

亡くなった方を心の中で思い出す。思い出すというのは過去にその人と関わった何かを思い出しているということになりますよね？これが親だったらどうでしょう？生前中に、無償の愛情を注いでもらった事、何か悪い事をした時に体を張って叱ってくれた事、共に涙した事等々。思い出せばきりがなく、喜び哀楽たくさん思い出が溢れ、浮かんできてくるはず。これは親だけに止まらず夫婦・兄弟・友人・または会社の同僚等々、とにかく自分が一度でも関わった事がある人なら、必ず何らかの思い出があるはず。

それぞれの心の中で、その思い出を生かす、または話しに出してあげる。そうすることで肉体は亡くなつても、いつまでもその魂は私達の心の中で輝き続ける事が出来るのですよ。そして2度目の死というのは、その思い出を持った人間の寿命が尽きて亡くなつてしまひ、誰も自分の事を噂うわさしなくなつたり、思い出してくれる人がいなくなつたりしたら、その時が遂に2度目の死を迎えるという事になるわけです。

みなさんはそれぞれ、ご先祖様の法要をお勤めになられると思いますが、その意義というのは当然の事ながら、ご先祖様の御供養ですよね？間違いありません。

子孫の皆さんが一堂に会して法要を務める。その事によつて、私達それぞれの心の中で、亡くなった御先祖様の魂を生かしている。それは一度も会つた事がなく、写真しか見た事がない孫や曾孫ひまじに当たる子供達にも同じ事が言えます。思い出

の魂を持つている親が、子供に御先祖様の話をして御先祖様の魂を生かさせていただく。その話がイメージとして、心に魂が宿り、その魂が永遠に消えることなく受け継がれていく。肉体だけではなく永遠の魂も受け継いでいきたいものであります。

合掌 副住職 谷川寛敬